

愛知県の地域における初期日本語教育の考え方（素案）

愛知県では、「地域における日本語教育」の場は、「ことばや文化、国籍などのちがいにかかわらず、すべての県民が誰でも参加でき、日本語を使ってコミュニケーションすることによって日本語の力を身につける」場と考えています。

このような場では、参加者は対等な立場で相互理解を深めるためのテーマや地域に密着したテーマなどを学ぶことで、日本語や日本社会の知識を身につけたり互いの文化的背景や考え方を理解したりすることができます。

しかしながら、日本語が全くわからないか、ほとんどわからない外国人県民と最初からこうした場をつくることは極めて難しいため、日本語の専門的な知識と教育方法の知識のある専門家によって、ボランティアが日本語でコミュニケーションをとれる程度にまで外国人県民に日本語の力を身につけてもらうことにより、地域における日本語教育の本来の役割を果たすことが可能となります。また、外国人県民にとっては、日本語を基礎から学ぶことができるため、その後の日本語学習に効果的であり、ボランティアにとっては、日本語教室に参加しやすくなり、対等な立場で相互理解をすることが可能になります。

したがって、「地域における初期日本語教育」は、「地域における日本語教育」への橋渡しの役割を果たし、外国人県民が日本語を使ってコミュニケーションをすることが可能となる日本語の力を身につけるために行うものであると考えます。

内容（素案）

「地域における日本語教育」への橋渡しという観点から、「地域における日本語教育」で行われると想定される生活上の場面のうち、重要と思われる以下の場面を使って、基礎的な日本語の力を身につける内容としていきます。

なお、それぞれの内容において導入する文法項目や語彙については、シラバスを考える中で検討していきます。また、1回あたり2時間とし、ひらがな・数字指導（15分）、日本語指導（105分）を想定しています。

- ①人と付き合う（あいさつ、自己紹介等）＜3回＞
- ②目的地に移動する（道を尋ねる、発車する時刻を尋ねる等）＜3回＞
- ③電話を利用する（電話をかける）＜3回＞
- ④物品購入・サービスを利用する（必要なものを選んで購入する、値段を知る等）＜3回＞
- ⑤復習（①～④復習）前半16回（32時間）

- ⑥住民としてのマナーを守る（ゴミ出し等）＜3回＞
- ⑦地域社会に参画する（行事に参加する等）＜3回＞
- ⑧災害に備え対応する（地震や台風について理解する等）＜3回＞
- ⑨事故に備え対応する（警察に電話する、救急車を要請する等）＜3回＞
- ⑩医療機関で治療を受ける（初診受付、診察等）＜3回＞
- ⑪復習（⑥～⑩復習）後半16回（32時間）